ガイダンス文書

よくある質問

ナイロビ・カイロ提案

2026年3月発行 / 大斎節節

ANGLICAN COMMUNION
IN OVER 165 COUNTRIES



はじめに

IASCUFOの『ナイロビ・カイロ提案』に関する働きにご関心をお寄せいただきありがとうございます。

『ナイロビ・カイロ提案』（NCPs）は、相違や分裂の中にあってもキリスト教の一致を促進し、交わりを深めるための枠組みを提示する神学文書です。

NCPは2024年降臨節に発表されました。この文書は、2023年の全聖公会中央協議会(ACC)において、「アングリカン・コミュニオンにおける相違に対処するための構造と意思決定」について新たな検討を行うことと委託された長期にわたる作業の成果です。

ACC決議は「可能な限り高い次元で共に歩むことを追求すること、そして違いを忍耐強く敬意を持って受け入れる方法をエキュメニカルな対話から学ぶことの重要性」を強調しました。

2024年以降、IASCUFOは『補遺』を公表し、当初の提案に若干の修正を加えています。

『ナイロビ・カイロ提案』は、2026年にベルファストで開催される次回ACC会議で審議される予定です。

本ガイダンス文書は、提案事項の概要を示し、よくある質問に対する回答を示しています。これはIASCUFOの主要文書を補完する資料として作成されました。

提案全文を読む

IASCUFOの取り組みを分かち合う2つの文書があります：

- 『ナイロビ・カイロ提案』（2024年2月公表）
- 『補遺文書』（2026年3月発行）

全文の閲覧およびIASCUFOの活動に関する動画は以下でご視聴いただけます：

提案の内容とは？

Q1 『ナイロビ・カイロ提案』とは何ですか？

『ナイロビ・カイロ提案』（NCPs）は、2024年に発表された重要な神学的文書であり、根本的な問いを投げかけています。現代においてアングリカン・コミュニオンであるとはどういう意味なのか？この文書は、世界中の聖公会諸教会が、一致を深めるための新たな枠組みを提示しています。それは違いが存在しないふりをするのではなく、違いがある中で共に歩むより良い方法を見出すことにあります。また、コミュニオンがどのように自身を説明し、リーダーシップがどのように分かち合われるかを述べています。これは2026年にベルファストで開催される次回の全聖公会中央協議会(ACC)での主要議題となります。

Q2 『ナイロビ・カイロ提案』の補遺とは何ですか？

『補遺文書』（2026年3月発行）は、2026年にローマで開催されたIASCUFO会議を受けて作成され、委員会が受けたフィードバックを踏まえて、原初の提案を見直したものです。いくつかの領域において、重要な提言を精緻化しています。この2つの文書は、ACC-19後に1つの文書に統合されることとなります。

Q3 これらの文書は誰が執筆・公表したのですか？

これらの文書はIASCUFO（世界聖公会一致・信仰・職制常置委員会）によるものです。これは世界中から集められた聖公会の神学者による常置機関です。委員会の意見は多様な視点を反映しています。

Q4 『ナイロビ・カイロ提案』は誰が委託したのですか？

この委員会は、2023年にガーナで開催された「世界聖公会一致・信仰・職制常置委員会」（ACC）からこの作業を委託されました。また、2022年に開催された「ランベス会議」が、「コミュニオンの器」(Instruments of Communion)は依然として目的に適っているのかを検討し、誠実に検討するよう求めた呼びかけにも基づいています。

ACCのプロセスと決定

Q5 全聖公会中央協議会(ACC)とは何ですか？誰が発言権を持つのでしょうか？

ACCは4つの「コミュニオンの器」の一つであり、基本的にアングリカン・コミュニオンにおける一致と宣教を推進する主要機関の一つです。ACCの会議には、聖公会の多様な声が集められます。各加盟教会から2名または3名の代表者（うち1名は必ず信徒でなければなりません）が参加します。他の3つの「コミュニオンの器」は、カンタベリー大主教、ランベス会議、そして、首座主教会議です。

Q6 個々の教会はこれらの提案を自ら採択しなければならないのでしょうか？

いいえ。個々の加盟教会は、自らの教会会議でこれについて採決する必要はありません。提案内容は、コミュニオン全体が自らをどのように定義するか、そして、それぞれの器がどのように機能するかに関するものです。各加盟教会には、これらの案への関わりが強く推奨されますが、それは義務ではなく、加盟教会にとっての法規上の影響もありません。

提案の概要

Q7 これらの提案が推奨する主な内容は何でしょうか？

本質的には2つの提案があります。第1に、コミュニオンが自らを表現する方法をアップデートし、使用する言語が百年前のものではなく、今日のコミュニオンの実態を正確に反映するようにすること。第2に、コミュニオンの主要機関や器のリーダーシップを拡げ、聖公会のグローバルな多様性をよりよく反映させることです。

Q8 当初の提案と『補遺』の間で何が変更されたのでしょうか？

主な改正点は、リーダーシップを分かち合う方法に関するものです。当初、IASCUFOは2024年の文書においてACCの輪番制議長職を提案していました。さらなる検討と協議を経て、委員会はより丁寧なアプローチを取ることとしました。すなわち、各地域の首座主教に対し、コミュニオン全体におけるカンタベリー大主教の働きをより多く分担するように招くという方向性です。2026年の『補遺』文書は、これらの更新内容を提示しています。また、ACCにおける儀礼的役割が主体の会長職を廃止し、ACCの構造を簡素化する提案もあります。これらは方針転換ではなく、改善策です。

アングリカン・コミュニオンの叙述をアップデートする提案への問い

Q9 聖公会に属する者が信仰を守ろうと「努める」と表現することは、コミュニオンの福音への献身を弱めるのではないでしょうか？

決してそうではありません。パウロはエフェソの信徒への手紙で、私たちは信仰における一致へと成長しなければならないと記しています。これは願いと歩みの言葉であって、失敗や相対主義の言葉ではありません。「努める」という言葉を使うことは、弱さではなく誠実さの表れです。つまり、私たちは信仰を大切にし、それに献身し、完全な一致が今もなお、共に目指すべき目標であることを認識しているということです。

Q10 では、これによりアングリカン・コミュニオンは緩やかな連合体となるのでしょうか？

いいえ。実際、提案はこの点について明確です。コミュニオンは単なる歴史的偶然ではなく、現実の、生きた絆によって結ばれています。それらの絆には、共有された信仰、共有された典礼、共有された牧会と奉仕の形、共に確認し合う関わり合い、そしてカンタベリーとの歴史的かつ断たれることのないつながりが含まれます。連合体(federation)とは便宜上の連合に過ぎません。IASCUFOが述べているのは、はるかに本質的なものです。すなわち、共に歩むよう真に召された教会の交わりです。

Q11 「カンタベリーとの歴史的つながり」とは、その関係が単なる歴史に過ぎないという意味でしょうか？

「カンタベリーとの歴史的つながり」という言葉は、同時に3つの方向を指し示しています。すなわち、コミュニオンに属する多くの教会の起源、古代の使徒的継承の象徴としてのカンタベリーの位置づけ、そして最も重要な点として、コミュニオンへの人格的かつ司牧的賜物としてのカンタベリー大主教との継続的かつ現代的なつながりがあります。これは生きたつながりであり、単に過去に関するものではありません。

Q12 これは聖公会のアイデンティティをポストコロニアル的に書き換えたものなのでしょうか？

ACCと首座主教会議はともに20世紀後半に創設され、コミュニオンをカンタベリー中心主義から脱却させ、全加盟教会に平等な地位を与えました。英国教会を中心とするモデルは過去の遺物であるとも言えます。今日、聖公会に属する者のかなりの部分はグローバル・サウスにあります。コミュニオンを誠実に論じるならば、この現実を起点としなければなりません。提案は、歴史を書き換えるのではなく、歴史に追いつこうとするものなのです。

Q13 これらの提案は、加盟教会がコミュニオンを離脱するのを防ぐために設計されたものなのでしょうか？

いいえ。IASCUFOの委員は、最も伝統的な立場から、最も進歩的な立場まで、聖公会の立場の全範囲に及びます。提案は、離脱を志向する教会だけでなく、全ての加盟教会への問いかけとなっています。これらの文書に対する応答も、あらゆる角度から寄せられているという事実が、委員たちが真に中庸を守ろうとしており、どちらか一方に傾こうとしているのではないことを示しています。

Q14 NCPsは、現在アングリカン・コミュニオンの一部として認められていない聖公会諸教会が加盟する道を開くのでしょうか？

いいえ。NCPsは、ACCの法規に定められている通り、新規加盟教会をACCの加盟教会に加えるための現行のプロセスを再確認するものです。加盟を希望する教会は常置委員会によって審議され、首座主教の3分の2以上の同意を得て決定されます。また、聖公会においては、一般的に「地理的に並行する管轄区域」を回避するという、重要なエキュメニカルな原則もあります。確かに、同一地域や領域に2つの加盟教会が存在することは想定できません。そのような状況が生じるには、特定の考え方で意見が一致しなくとも、交わりと調和に対する強固な共通の関わりが必要となるでしょう。

Q15 IASCUFOによるアングリカン・コミュニオンの改訂された定義は、エキュメニカルなものと言えるのでしょうか？

はい。ACCはとりわけIASCUFOに対し、コミュニオンのエキュメニカルな対話から学ぶよう要請しました。すなわち、真に相違を尊重しつつ、それを無視せずにどう共に在ることができるか？弟子たちが一つとなるよう祈られた主イエスの教えをどう守り続けることができるのか？これらは数十年にわたり、聖公会が他のキリスト教諸教会と、さまざまなエキュメニカル対話を通して取り組んできた課題です。NCPsはそうした智慧から学んでいるのです。

IASCUFOがこれらの提案で使用する言語と枠組みは、何かを和らげたり、困難な問題への取り組みを回避するためにエキュメニズムから借用したものではありません。これは、キリスト者が完全な一致への旅路にありながらも、真理の中で共に歩む方法を記述するために、私たちが持つ最も誠実で検証済みの語彙なのです。

リーダーシップを広げる提案についての疑問

Q16 なぜNCPsはカンタベリー大主教の職務を同僚的に担うことを提案するのでしょうか？

多くの点で、この提案はすでに進行中の同僚的なアプローチを基盤とし、それを正式なものとするものです。カンタベリー大主教と首座主教会議の間の協力的な同僚的な働きの形は、過去数十年で次第に定着し、特にジャスティン・ウェルビー大主教によって発展させられました。2024年の首座主教会議はまた、カンタベリー大主教のコミュニオンにおける職務が、（首座主教会議常置委員会を構成する）各地域の首座主教の助けによって「補佐され、拡大される」可能性を示唆しました。

各地域の首座主教たちもすでにカンタベリー大主教の司牧職の一端を担っています。例えば、彼らはコミュニオンを代表し、新しい管区を支え、困難に直面する諸教会と共に歩んでいます。この「協議体」が持つ権限は、カンタベリー大主教がすでに有する権限を超えるものではありません。現在でも、大主教は加盟教会の内政に介入せず、要請があった場合にのみ司牧的支援を提供するに過ぎません。

Q17 これはカンタベリー大主教の役割を弱めることになるのでしょうか？

これはグローバルな奉仕職の在り方についてであり、その職に就く個々人についてではありません。むしろこれはカンタベリー大主教の職務を解放するものであり、縮小するものではありません。より同僚的なものにするのは、その重要性を減じるのではなく、より持続可能で、より真にコミュニオン全体にわたるものとするためです。

IASCUFOは2023年にこの神学的作業を委嘱され、NCPsはサラ・ムラリー、カンタベリー大主教の任命よりかなり前に公表されました。このような作業は前カンタベリー大主教ジャスティン・ウェルビーによって支えられていました。ローワン・ウィリアムズ大主教も同様に、これらの器に対するより広範な主体性の必要性を表明しました。カンタベリー大主教は、ACC-19における『ナイロビ・カイロ提案』に関する対話を歓迎しています。

カンタベリー大主教の職務を同僚的に担うという展望が妥当なものであるならば、IASCUFOは、大主教と各地の首座主教がその構造、名称、権限範囲を決定することを提案します。

Q18 なぜNCPsはグローバルなコミュニオンにおけるリーダーシップについてアップデートされたアプローチを提案するのでしょうか？

アングリカン・コミュニオンは非常に多様で、165カ国以上に広がっています。数百万人の信徒の大多数はアフリカ、アジア、ラテンアメリカに住んでいます。私たちの共にある営みを形作る「コミュニオンの器」は、このグローバルなアイデンティティを反映すべきです。

Q19 同僚的な分かち合いは首座主教たちに過大な権限を与えることになるのでしょうか？

提案は新たな権限を創設するものではなく、司牧的・代表的側面をより広く共有できるようにするものです。カンタベリー大主教は、ほとんどのエキュメニカルな場において、引き続きコミュニオンを代表する者として位置づけられます。

Q20 NCPsはアングリカン・コミュニオンにおける英国教会の位置づけに対してどのような影響を与えるのでしょうか？

アングリカン・コミュニオンに属するすべての加盟教会は、いずれも自立し、自治が認められています。英国教会も、アングリカン・コミュニオンにおける他のどの教会とも同等なものであり、それ以上でも以下でもありません。これらの提案はその平等性を反映したものです。英国教会がアングリカン・コミュニオンにおいて持つ歴史的意義を認めつつ、世界中のあらゆる加盟教会が分かち合う営みをも祝福するものです。